

SEG 2006 Conference 鉱山業における富の創造

Society of Economic Geologists (SEG)の2006年の年会が2006年5月14日から16日の日程で、米国コロラド州キーストンで開催された(写真1)。SEGは2年に1回の割合で鉱山会社の活動をメインにした会議を開催しており、前回は2004年に豪州のパースで開催されている。この催しは日本の鉱山製錬所現場担当者会議に雰囲気似ている(写真2)。



写真1 年会の行われたキーストンリゾート。



写真2 SEG 2006 年會会場の様子。

今回の年会は「鉱山業における富の創造」(Wealth Creation in the Minerals Industry)と銘打って、初日に「ビジネスとしての探査」(The Business of Exploration)、2日目に「富の創造：富の創出と分配」(Wealth Creation: Generating and Delivering Wealth)、3日目に「具体例」(Case Histories)の主題のもとに主としてメジャー・ジュニアの鉱山会社の幹部が講演を行った。

初日のセッションではウォールストリートから見た鉱山業、金属元素の需給関係からみた今後の動向、世界的規模の鉱床による富の創造、リオティント社の長期探査戦略、持続的発展のためのアプローチ、鉱床探査・開発のための人材育成、鉱床探査手法のレビュー、探査効率を上げるためのコストおよびリスク管理、地質鉱床モデルの重要性が討議された。

2日目のセッションでは、ジュニア探鉱会社とメジャー鉱山会社の役割、選鉱方法の改良による新たな探査ターゲット、探査から鉱山開発、選鉱過程でのコスト削減戦略、採取データの徹底的解析、鉱山の買収、鉱床学研究成果の適用が議論された。

3日目のセッションでは、WMC Resources社、コデルコ、カメコ社等が鉱山の探査・開発で成功してきた例が示された。この中でもモンゴルのオユトルゴイ鉱床の探査に成功したアイバンホー社の発表は多くの聴衆を集めた。

今回の年会で討議の的になったのは、現在、金属価格の高騰を反映して鉱床探査に資金が還流し、近代的な探査手法が

用いられているにもかかわらず、大きな発見が極めて少ないことである。多くの発表者は、これは探鉱会社が、リスクが少ない代わりに探査が行き届いたグリーンフィールド(チリやカナダ)を中心に探鉱していることを理由にしたが、コデルコの前探査最高責任者であるフランシスコ・カムス氏は、探査に知恵を絞れば新発見は可能で、コデルコはそれを実現してきたと指摘した。コンサルタントのリチャード・シリトー氏は、鉱床探査を成功に導くためには、良い人材をより長くフィールド調査に投入することが基本であることには変わりがないことを強調した。

これらの発表は Abstracts of Oral and Poster Presentation として参加者に配られ、発表に関連するテーマは SEG の Special Publication No. 12 「Wealth Creation in the Minerals Industry: Integrating Science, business, and Exploration」(M.D. Doggett and J.R. Parry 編)に論文としてまとめられている(写真3)。

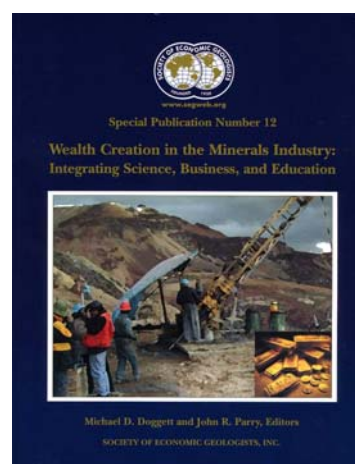


写真3 出版された SEG Special Publication No. 12.

この年会の前日には SEG の世界各地の学生組織が一同に会する初めての Student Conference が行われ、約20の大学から200名弱の学生会員が集まった。学生によるポスター発表が行われ、5名の発表者が優秀賞に選ばれた。学生がこの会議に参加するに当たり鉱山会社はその費用を負担しており、さらに学生と企業が話し合う機会ももたれた。5月14日には表彰ディナーが開かれ、Brian J. Skinner がペンローズゴールドメダル、Holly J. Stein が SEG シルバーメダル、Tommy B. Thompson がラルフ・マルズデン賞、Stephen J. Piercey がワルドマール・リンドグレン賞を受賞した。また2006年のレクチャーである John J. Gurney (Distinguished Lecturer)、Douglas J. Kirwin (International Exchange Lecturer)、A. James Macdonald (Thayer Lindsley Visiting Lecturer)、Nicolas J. Beukes (Regional Vice President Lecturer) が紹介された。

この年会の前後には、鉱物資源開発における地球科学、探査プロジェクトの品質管理と鉱石管理、資源と埋蔵量評価、物理探査、フィージビリティデータ、持続的開発と社会認可、探査リスク管理の7つの Workshop が行われるとともに、クライマックス Mo 鉱山、クリブルクーク Au 鉱山、ヘンダーソン Mo 鉱山、リスボンバレー堆積岩胚胎 Cu 鉱床、ビンガム斑岩銅鉱床とカーリン型鉱床、さらにコロラド Western Slope ワイン園への巡検が実施された。